

# 廃棄物への取り組み

## 目標

ニチレイでは、循環型社会の構築が急がれる中、廃棄物の削減、リサイクルを優先的に取り組む課題と考え、廃棄物排出量の削減、リサイクル率(事業所外に排出された廃棄物のうち焼却または埋立に回らず最終的に有効利用される率)の向上に取り組んでいます。

2000年度は、1999年度対比でリサイクル率を5%改善する事を目標とし活動しました。

2000年度は、1999年度対比でリサイクル率を5%改善する事を目標とし活動しました。

## 2000年度実績

2000年度は、目標の5%を上回る7.3%の改善を行うことができました。食品事業関連ではISO1400認証取得事業所を中心に動植物性残さ、フロス・余剰汚泥、紙・段ボールといった多量排出廃棄物のリサイクルが進みリサイ

クル率の向上に大きく貢献しました。低温物流事業関連では、流通型事業の拡大と焼却炉の使用中止等により紙・段ボール類の発生量は増加しましたが、リサイクル化の取り組みが進みリサイクル率は向上しました。

### リサイクルの現状

#### 全社

事業所外排出量 30,015t(前年比**105.3%**) リサイクル量 17,497t(前年比**120.5%**) リサイクル率 58.3%(前年実績**51%**)

#### 食品事業関係

	事業所外排出量(t)		リサイクル量(t)		リサイクル率(%)		1999年度に対するリサイクル率の変化
	1999年度	2000年度	1999年度	2000年度	1999年度	2000年度	
食用油	1,850	1,800	1,843	1,798	99.6	99.9	0.3
動植物性残さ	7,984	8,540	4,307	6,372	53.9	74.6	20.7
フロス・余剰汚泥	7,664	7,054	4,633	4,417	60.5	62.6	2.1
プラスチック類	257	317	4	48	1.6	15.1	13.5
発砲スチロール	14	28	5	27	35.7	96.4	60.7
空缶	214	160	198	125	92.5	78.1	14.4
紙・段ボール	2,960	2,728	1,718	2,066	58.0	75.7	17.7
木屑	119	61	25	25	21.0	41.0	20.0
鉄屑・スクラップ	150	440	118	233	78.7	53.0	25.7
その他	1,049	1,071	13	13	1.2	1.2	0
合計	22,261	22,199	12,864	15,124	57.8	68.1	10.3

上記結果には、事業所廃止等、対象の変動による増減も含まれています。年度中間閉鎖された事業所の実績は加えていません。対象工場の生産t数は144t(1999年度)から160t(2000年度)に増加し前年比111%になっています。

#### 低温物流事業関係

	事業所外排出量(t)		リサイクル量(t)		リサイクル率(%)		1999年度に対するリサイクル率の変化
	1999年度	2000年度	1999年度	2000年度	1999年度	2000年度	
動植物性残さ	944	1,026	39	219	4.1	21.3	17.2
プラスチック類	576	627	17	29	3.0	4.6	1.6
発砲スチロール	27	61	1	8	3.7	13.1	9.4
空缶	132	127	94	98	71.2	77.2	6.0
紙・段ボール	1,863	2,801	349	1,177	18.7	42.0	23.3
木屑	1,323	1,197	749	584	56.6	48.8	7.8
その他	1,367	1,977	410	258	30.0	13.1	16.9
合計	6,232	7,816	1,659	2,373	26.6	30.4	3.8

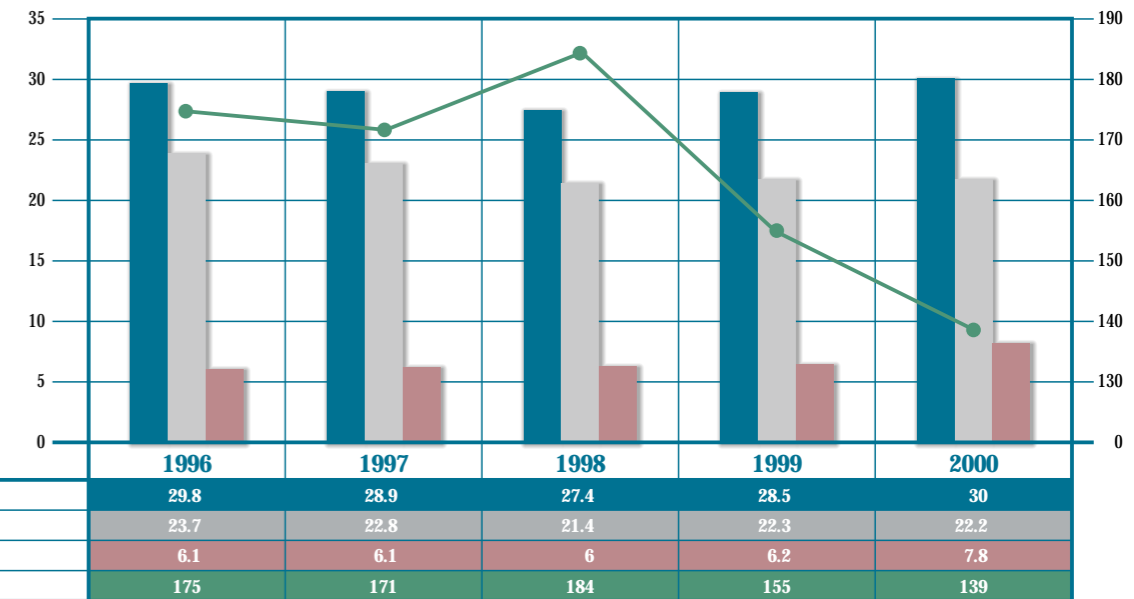
事業内容が異なるため、食品事業と同一の種類ではなく排出量の多いものをあげています。上記結果には、事業所廃止等、対象の変動による増減も含まれています。年度中間閉鎖された事業所の実績は加えていません。

## 事業所外排出量の推移

2000年度についても、削減目標はかかげませんでしたでしたが廃棄物の排出量の低減に取り組みました。食品事業における排出量は、前年度比99.7%となり、ほぼ前年レベルとなりました。しかし、生産t当りの排出量は、脱水汚泥排出削減の取り組み等により1999年度比89.7%と大きく削減する事ができました。低温物流事

業では流通型事業が拡大する傾向にあり、これにともなう梱包材の排出の増加等により年々排出量が増加しています。

2001年度からは、排出抑制、再利用、減量、リサイクルといった活動に総合的に取り組み、最終処分量の削減を目標として取り組んでいきます。



## 排出削減、リサイクルの取り組み事例

排水処理に酵素を利用する事により排水処理設備より排出される脱水汚泥発生量を前年比約24%削減(1,550t → 1,180t)しました。《関係会社：千葉畜産工業株》

排水処理設備の改造により脱水汚泥発生量を約26%削減しました。《関係会社：(株)山形ニチレイフーズ》

分別徹底、業者による処分方法の変更(動植物性残さの飼料化リサイクル、分別徹底による廃包材の固形燃料化)をすすめリサイクル率の向上をはかりました。《関係会社：(株)ニチレイフーズ船橋工場、高槻工場等》

低温物流倉庫では、分別徹底によるリサイクル推進、パレットを木製から寿命が長くリサイクル可能な樹脂製に変更する等の活動を実施しています。



動植物性残さを飼料化リサイクルする為分別(株)ニチレイフーズ高槻工場)



廃棄物の分別、リサイクル推進のために新たに設置された分別ステーション。(関西日冷高槻事業所)

### 用語解説

事業所外排出量  
ニチレイの事業所の外に排出される廃棄物量。

### 用語解説

固形燃料  
可燃性の廃棄物を破砕・粉砕・選別して金属などを除去した後、紙類やプラスチック類などの有機物を固めて燃料化したもの。RDF(Refuse Derived Fuel)とも言う。